伽詩七部集

阿羅野

五

中村俊定文庫
文庫 18
685
5

主人
百鯉庵仲洲
露秋

檀

尾陽茅舎檀木堂主人荷今子集を
編くあらんとせしかば何ぞ此
ものがたりをかたるのみにわ
ひやうしぬ卿に猿蓑をし
れりしかども去極あつまりて
いかでかこの序を書かとかの
ものがたりの衣文をもとめ
ものがたりの柳桜乃錦をまは
てかの序をかくなり

[illegible]

元禄二年弥生　芭蕉翁

荒野集目録

巻之一　花　郭公　月　雪
巻之二　歳旦　初春　仲春　暮春
巻之三　初夏　仲夏　暮夏
巻之四　初秋　仲秋　暮秋

巻之五　初冬　仲冬　歳暮
巻之六　雑
巻之七　名所　旅　述懐　恋　無常
巻之八　釋教　神祇　祝
貞外

早稲田大学

曠野集巻之一

花三十句

よしのにて

[illegible]　貞室

[illegible]　路通

[illegible]　信徳

[illegible]　晨風

若佛〳〵花乃後ゝ見ん　友五

中村俊定文庫

山里の春の夕花見る那　尚自
何ゆえ人の長刀　去來
みづの雲すとにぬもぬ沼　野水
まるの孔あの下戸うて来るいなら　亀洞
下こ孔下ゆちあといま神ん花の長　越人
も肌乃山常れくふる枝も沼　一井
尺あもーうふもに成ぬ花の滝　俳嵩 俊似
兄分のいろはあもくるものとき　嵐弾

連たつやの句
李太白「春夜宴桃李園序」
に拠っている歟

ちるもあるも沼ぬ人くく　舟泉
冷汗よ数てよ花乃涙　胡及
もつ花よ誰ら傘いいます　長虹
柴舟乃花咲るきう乃　雨　俳嵩 卜枝
ゆるるるなるて迷もの枝　岐阜 鴎歩
連たつや沼ぬもの枝　従弟
疱瘡乃脱るるくゆるるるくく　傘下
あるきあや風車賣花乃とき　薄芝

おほし ノ誤か

花よりさてうぐいすの成れかな　さつ

山あひの月より見しかすみ　心苗

行あしの雲を空にとまるなの雲　越人

なをあひやまつむらさめ　野水

獨東て交選ひきり花ぢやき　冬松

花をやこたへ蕣の色とうあ　冬文

蕣おして巡ひ蛍さそ　梅方

湖のこゝろある人乃絵

櫨

月芭蕉なくて湖のむひやうか　芭蕉

ある人乃山あるいとすて

櫨乃実ぬれよかすまるするかな　同

杜宇二十句

ほとゝぎすを用をくるものく

東ゆく夜やるとれよ

香鑑乃夏月てん部公　季吟

月よりも青葉山ほとゝぎす　素堂

いそゝきあるうり畑蜀魏　釣雪

墻壁のひうとひくゝや　越人

花ひゝこ乃にもまするや時雨　洋雪　松下

跡や先雲ゐ遠く郭公　皇五

ほとゝぎすなのるむ野の廣さ　柳風

ある人のもとにて発句ありけるとき

ほとゝぎす

やとゝぎす　鳥の羽　嵐弾

晴ちまほ京のやまかぜ　落梧

扱爲奥花廣見うつや時鳥　一髪

三歩ゆと跡乃行ゝや郭公　同

渡て

やとゝぎす十日もはやき兎舟　風泉

鐵さや廣入らぬ先の渡りて　岐阜　杏雨

あゝ明ゝやを聲て笠　郭公　傘下

くらかるやかう雨ふる夜　同

馬とるよくあひきる郭公　鈍可

きくあとひきの月を
みちゝるとふらゝ
ゝ

ゝのかるふかくれ人の家ほくゝ　大津智月

うつのつとやうはゝきをける　李桃

うたかゝ雲と雲のつゝく波ゝ　市山

月三十句

かるゝ也乃うへゆく月夜か　十二歳梅舌

ゝ紙ゝゝ月入る中の猫の鼠　湍水

月ゝ川ゝびゝゝかゝゝ雪か　一雪

雨の月とゝゝ船ゝゝ　越人

きうとさよゝ脇むく月夜か　昌碧

屋ゝゝ梨の青ゝゝ宵の紙　津嶋市柳

わゝゝゝゝて徳る月夜か　一髮

とこすてもなんとぞ雲の月ぞ野中ぞ　長虹

○峠を夜抱く月　なくう郷　任他

一つ屋やいをとんるなふのつき　亀洞

名月を笑ゐるさはなのをきり　越人

○見てやらに十二もききをうら　文鱗

名月やふ波ゆ多てく佐ゆく舟　昌碧

めいきつやさてて　あてくるよ舟　傘下

見てもや鼓乃屋多也　大乃て名　二水

見ゐもの也笑て人乃月見ぞ　野水

名月乃ふ　うゐ

也つし也月を見るゐを少を燒ら　荷今

いつの月もあとぞ志ゐて義也　同

○名月や海も杉毎を山もらす　去來

めいきつや下とと下とのむつやしき　胡及

名ぞいけつきあつきもゐ林うゐ　釣雪

元月ぞ見てし　梢もそひ　ゐ月の影　一髮

十三夜

新蝉声遠き地祇の月影　板風

朝日

暮いそぐ月乃氣はなし海乃景　荷今

二月

見る人もたゝ名残月の夕ゝ哉　仝

三月

何ゝ似すこゝろ月　芭蕉

四月

夕月夜あんどんくらくもゝ　卜枝

五月

何はとも見さゝぬ夜の月　伊豫　一泉

六月

銀川見習ふ月見ゝ　豊崎　鶴聲

七月

稲刈るまゝ明てゝ居る月夜　岐阜　一髮

雪二十句

大津にて

雪の中や船引るゝ新乃道　其角

ゆきゆゑの雪もてなす一服茶　芭蕉

竹乃雪蕊にて黄なる花の色　麋交　京

かさなるや雪ふる山只乃山　加生

車道雪なきみゝ乃あしさ哉　加賀　小春

まつ雪ふるてゝうゝ顔を没ら　越人

はつ雪に戸明ぬ前と乃菴の朋　是幸

ものゝけの姿ぬ雪の一川ふ　松芳

くゝさ黄に初張ふ雪ふ隈　二水

雪降てゝ一ふ金ふ色ふ雀ふ那　鬼伯

黄乃雪れとき姿ぬ雪ふ枝ふ　岐阜　除風

ゆきの日や川筋ふ雪ふ　鷺汀

初雪や村一に雪ふ茅の簾や　傘下

雪ふ江の大舟ふ小舟ふ　芳川

雪乃名から鮭とくる夢の頃　冬文

雪ぞ蓋ぞやうつや鷹ぞ色　桂夕

ちらちらや淡雪かなる海強仮　荷兮

もつ雪や先笠履にて隣まで　路通

はつはつ雪のふる所　野水

舟かけていくつ姉ぞも海の雪　芳川

曠野集巻之二

歳旦

二日よりぬるるも色もしら花の春　芭蕉

釋

姉人のまからもかしこむ乃春　古梵

つつみや九千年ぞ流るる滝　風鈴軒

松のうちと伊勢の家買人を雉　其角

うぐひの音連歌をあるすかしの春　有　文鱗

月雪ぞ岩ぞるるも山の松　去來

田にし取鳥は金ぐ俳諧也（白双子）

かさうて木よなうてさくる梅か　一晶

元旦や伊勢の宮居神さびて　路通

元日をゆすりもしぬるすみれ　加賀　一笑

歯固や梅乃むらむにちひう郷　大垣　如行

ゆすり社老よをこうの孫さしの葉　岐阜　落梧

ゆすりもしぬるすみれ　亀洞

伊勢浦や清水引休世とゑの葉　同

ゆすりもしぬるすみれ　昌碧

去年の長ちいさこのるとしの草に　元廣

小椎子栗やひろもむまつのうと　舟泉

とし男子秋京をあらひきり　同

山栄よう〳〵白きる竈う郷　童五

松高し引馬海るし年ねこ　釣雪

月出乃初を琵琶乃末ざりか　同

連てきてこよ海せけり万歳乗　一井

うゝ白ときちる神のる屋か　胡及

えだ松ふるむてや新しき年の海　長虹

と名をつけて縄掛　おなく柳ゆ　嵐弾

さわ姫ふゆ孔雀いつかく苔　同

蓮華や舟の通孔うんかくも　湍水

佛ちゝ神そ出ちゝ紀ちゝの出　京　と矢

のゝ宮やとゝの見ちゝいうかゝん　扑什

ちさたとたう　ひくすたゝ和　冬文

正月の魚乃ゝらゆ炭出ゝら　傘下

ゝ氏孔寂しかゝゝ孔雀孔　冬松

あいゝゝゝ松あゝ門あれあゝゆ　柳風

大服ゝ去ゝ年のゝ出ゝ孔孔白ゝ　防川

ゝ孔孔ゝゝ文ゝ孔飛ゝ年れとゝ　大山　昌勝

傘に歯果かゝゝゝ元方ゝ孔　夕道

紬すゝゝ松の葉ふ孔ゝ孔の出　梅舌

出ゝゝゝゝむゝ形ゆうつる大ゝみ　野水

曝ゝ出ゝ孔ゆたゝふゝゝら　同

きつまとなりて　賢（カシコウ）　越人
和多や濱より橋乃ちとせ　（日人云鯨）　同
（多羽能能ほのかすし）
きりやせ志津階のきの麦畠　荷兮
萬歳乃やまと隣とゆるさぬ　同
已のゝやむうしの毒ちれ　同
我ハ喜ち　月ちにとるまりもち　僧般齊
家笠ち式ち有ちとの　貞室

初雲

ちの蒙つむ跡ちと木戸剣細ち　越人
粧出して搦とちのくぬの菜ち　野水
七草を出ゝ花ゝ子ち　津嶋　俊似
女ゝ霧ちあるのの菜ち　加賀　小春
側雪て殺乃れ毒花儀菜ち　藤羅
吾ゝも殺して毒ちの菜ち　岐阜　素秋
名物くつちゝ極れしきの　玄察

奪ふて折るまでうつ　梅乃花　鴎歩
むさぼり色なのうれしいさ　越人
藪入さ紙なさりよわらん梅乃色　落梧
梅折てあこうとうん四五羽の鳥　一笑
妻なるかりむ矢乃すハいそ彩あき　冬松
みのむ　とう紙ぬるる梅乃さうり　蕉笠

綱代民部の息こ重く

梅乃朱よあをやとアと水や梅ぢ花　芭蕉

うくひ次乃ぬそこ重る嵐哉　長良　若風
ぬるもいるや雉ひ泣ふ片まる　伊賀　玄来
あきはのや雲とぬる紙　伊賀　一桐
ぬるくちいさき梅ぬ紙　津嶋　一笑
うくひ変ぢ色く脱さ巾ぬ　同　市柳
ぬるもりなるみもあるさや彩色変　同　夢々
うくひきにぬ波こぬるあるぬ　梅舌
ぬやうるむタをきりの盗ゥ邪　野水

[illegible]　塵交

[illegible]人乃袁を[illegible]　冬文

[illegible]　一二寸　芭蕉

[illegible]の[illegible]　傘下

水仙乃[illegible]　路通

[illegible]枝　荷兮

歯塵題

[illegible]　舟泉

梅木

つま[illegible]　傘下

椿

[illegible]　荷兮

同

[illegible]　卜枝

春雨

[illegible]　端水

蛛

蛛
蜘蛛
蛛の巣（網也）

同

蛛の雨ぬきとおもふてこそ　氣弾

白尾鷹

きやゝゆとゝ乃蔦つまもとゝ白尾小　野水

蛛乃井ゑ寄毎かるゝ下り風　奇生

立匂ふつゆ草ゑこゝ添明ゑ小　土歳 兎助

すこ〳〵と新子摘きりぼく　舟泉

すま〳〵と橋やつますや土の車　其角

すこ〳〵と栗山子のもとり土車　蕉笠

土橋やとゝろくきへゝ多つく〳〵　塩車

川舟やまゝのへゝつむ土筆　冬文

ぼく〳〵し頭巾に出る出る　青江

蘭亭乃主人池ゑ

稱ゝを重ゝ稲

池ゝ稱ゑ〳〵低ゑ

ゝ筆ゝゝ友ゝ

書写ゑ柳張　素堂

風の吹市成酒もちやあさ　野水
行くも新しとるしり　柳水　越人
さし柳岩さき所もあり　一笑
尺とるとさやもえぬる　柳水　小春
すう紙柳ちる風とまつむ　一笑
こまつきて笑をとめる　柳水　昌碧
さき紙さも髮のゆのまぬ　柳水　杏雨
さし〳〵さて植まちるる　柳水　洲橋

姉くう炭く牛のとさむく　柳水　杏雨
吹風くる屠とくすぶやるる　柳水　松芳
う摩姉の地ほちヤのなるれ　柳水　接越
いそうしき野鍛治ぬさ　柳水　荷兮
蝙幅くみさ酒月乃　柳水　仝
青柳まめ紙くて面の車　柳水　素秋
引いさく後へ後ふ　柳水　鴎歩
菊乃名をさ紙ふ穂ふ　柳水　生林

仲春

麦の穂に芒末ふる風の嵐哉　不悔

芒末ふるや枝葉のゝ末あへく　長虹

なの花ふる雨ふるつる日哉　傘下

菜ふるもの曙うら深なるめ哉　清洞

うゝとゝとゝ人交で畑うつ蓬ふる風　去來

一方歳を仕舞ふくうてるすゝ黍　昌碧

つくきまづゝ初ゝさゝふる風　越人

廣庭を一面稲ゝ哉　笑艸

とさゝゝを簑干さゝ咲ゝ　除風

ほのゝゝほとゝぎす橋ふる　一橋

うし飼ゝ足ゝ紀如の橋ふる。冬松

ちこゝゝ山やゝ紅をむきみう　一髮

ちる風ふちゝ鶯雲雀ふる　野水

あゝのゝに霞てゝむ羽ゝ雀ふ　除風

うる色ゝつゝちあうもる雑子う那　一雪

いろゝと情縄解てくやる雅ゝ　塩車

[illegible]て三の戸あゝ原雁ゝ　山崎宗鑑

いろゝてゝいとあひ笑ぬかゝつゝ　落梧

あのつゝ[illegible]ゝ越人

いくすゑ色と骨相る者のかゝゝ　去來

[illegible]入ゝ[illegible]ゝゆく蝶ゝ　落梧

不圓と[illegible]て後ふ[illegible]原性下ゝ　洋嶋松下

ゆふやゝの角胴ゝいる蝶ゝ　一井

ゝつ蝶を咒乃尺[illegible]ゝ　柳風

桜胴の袂ふにとゝゝてゝる胡蝶ゝ　梅餅

かやゝ[illegible]巾をおゝ[illegible]ゝふゝ　炊玉

かゝ[illegible]芝やゝ袂ゝゝ[illegible]胡蝶　百歳

若葉

何[illegible]ゝつゝ[illegible]ゝ　忠知

[illegible]ゝと馬ゝ[illegible]草　荷今

ゝゝくの[illegible]ゝ[illegible]ゝ　野水

塊

屋たてうるとは乃とすす同の若さ　舟泉
草刈て莖選おすゑ　う那　鴉歩
り螺れと海見殘さぬあさみ　燭遊
麦畑乃人えぶたるの塊こう那　杜國
きぶ山や勝の月ぶすすゑ所　大坂　或之
ほろ〳〵と山吹ちる瀧乃音　芭蕉
松明くや乃吹うすし夜のい海　野水
山吹とてゆのまきれぬあゝ　卜枝

一ゝとのゆし山吹のゝゝゆへゝ那　岐阜　櫟雪
ひとはなてや乃ぬさぶそゝいとるぶ　同　蓬雨
あそふとも粉ゝくとも燕りな　玄変
ちゝ度の巣ゝ土ぬ乃ぶ生す燕ゝ　俊似
いまさゝゐとい生ぬたゝの燕ゝ肌　長之
燕乃巣ぶ覗ゐすゝゝこの那　長虹
黄昏さたてゝゐさぶる燕哉　嵐弾
友減て鳴きうゐなる黄乃原　且菜

角ふてやまくしたゆる小春哉　蕉笠

あら磯よ親よりの浦の塔下ら　越人

花やもゝ子も同しかゝもの桃の花　傘下

人ゝむ舟と陸とのはてゝ那　三編　文童

山よ油ゝ也咲ゝ鶯躍躍ゝ　荷今

朧夜やかくてさきさ藤のむ　兼正

舞火よ夜のらゝ也猪舟ゝ那　亀洞

永さはや種実ゝもゝ也ゝし　卜枝

永さはや油ゝ実水乃ゝ流ゝ　野水

り春ゝ行あゝ塔ゝ実ゝ流ゝ　同

曠野集巻之三

初夏

うゑかへや白ふくもちの苗代　路通

更衣袷もわすれたりさよ　傘下

うゑもうへ刀をさして　釋嵐弾

肖柏老人乃ちたまひしあしの山とゆふ
ものとこそのすがむしけよ文鱗　うゑかへ
とて宗の名越人の書きそるを忘れず
ゆゑ乃ちの紙の片文鱗よりつゑ
ゆる

蚤よ蟻よもあるへしうゑかへ　荷今

山路にて

なつ来てもなほ山ふかし郭公　芭蕉

いちはの里桜ちるなんうつろふ　一井

椿咲本万はるとアるるあるを　越人

切ふるるかりの袋を桜かな　岐阜　不交

ゆるがせうちくるよりのの木かな　同　藤蘿

つもれくるその木くれある家かな　亀洞

ちらくるるにとまる故蝶かな　竹洞

ゆあらしてそのふるまひ夕風　鉞可

さけ山やトしるの澤の木　夢々

上ケ土よいつるち猪とて麦一穂　玄察

枯色ものて麦もちのアとんぼ麦のかな　生林

麦かアて葉乃木ちのとしぼりかな　作者不知

むさかりよもの所に星の蓑の風　鉞可

ちるる蓑よにそくるやゝ蝶乃氣いろ　嵐蘭

鳥飛てあふ肌さけ一の一ちかな　之路梧

[illegible]て敷て寒くなるまゝに　岐阜　李桃

大粒なる雨さゝぬえ〳〵茨子ぢも　東巡

茨さしひさく見れば拾ひぬ茨子のむ　吉次

依川の居さて

奄の中もみ〳〵くなりぬすゝ　嵐雪

さひ〳〵さりさきれはえすかつを　野水

仲夏

[illegible]ゆるく笹さゝるる蛍哉　櫻井　尤浦

刈草の馬屋よりほのかなる哉　一髮

窓さゝゝゝ障子をのぼる蛍小　不交

閑先さゝさゝ人ゝ蛍の影　風留

屋ゝく遠き祇園の蛍の哉　青江

あ先ゝ[illegible]ゝ蛍の那　含帖

くさかゝの油さゝ[illegible]ある小　卜枝

[illegible]て濡る油ゝ[illegible]る　鴎歩

[illegible]て薄室[illegible]ふ[illegible]

うらうらのひしのうくあやめ咲かるる　秋芳

故のむかしの梅乃一本ゆき雲かくり　小春

うやうやしよ夏面せ雨くなるとなり　杏雨

面のくれ傘乃ふるるよ鳴蚊の　二水

蚊乃痩て鎧ゆらへよさりもと　一笑

蓮ゆ切ゆこの法ゆるる延ゆ賞ゆ　胡及

指引て蓮のむきやむ異ちさの肌　児竹

足伸へく姫百合ゆ折すをわか　此橋

竹乃子よ行燈さけてまさりも来　長虹

笋乃時くるとまるーうみ竹　玄来

岡杉ゆ豊くくでもあき水鶏ゆ　野水

五月雨よ柳さかゆ行う那　大俳一龍

この花を小粒ふなりぬ五月雨　尚白

ふうう雨を傘よまをゆのさを雨乃ゆ　亀洞

岐阜

杉のううさしさくゆ鶏鳴ゆ　貞室

杜なし一所にて

物さびしさ山もくれかゝる　芭蕉

おなじく

稚のぼりよる舞こゝ地やや　荷兮

同

夏ゝは鉢を伏んゝ粉屑舟　越人

生ふりの家もかまくら粉屑ふり　大津　淳児

曲江は編笠のゝこゝ地ゆゝ　梅雄

鶯

鶯の巣のゝこゝりあるゝかれを　路通

松ゝの保をゝるる蛍野ゝ　卜枝

虹乃根をかゝ原野中乃樗ゝ　鈍可

蘭ゝ花や泥ゝゝ雨乃雨　同

梅ゝや蔵書人をゝゝゝん　越人

冷ゝや灯のゝ蛍乃あゝ　藤羅

蛍ゝ蔵やゝゝ火ゝ簾ゝ屋　且来

蕎乃蔵ゝ

すひつさくさこちらり　夏ゝ岩俵　其角

夕ゝかやや秋ちこいの孫く　ゝ孫瓢の肌　芭蕉

ゆふゝほのしろほもむそ人乃ちゝ　ゝ　野水

夕良き改乃宿屋のちゝ佐ゝ　偕雪

山路来てゆゝかみ法のものゝ　律嵩　市郎

見き色ちゝゆふほゝ似ゝ　長虹

暮夏

椿も新くやうゝ蟬ゝ　昌碧

雲北岸腰ゝけ沉たゝむなり　野水

夕ちゝ傘ゝ　坊樹の風　傘下

ゝ〳〵さて夜もやゝ水陽ゝ　玄旨　法印

涼〳〵さゝ白雨のゝ入ゆ影　去來

簾〳〵孫〳〵やゝ扇のちいゝち　荷兮

ちゝ色孫ゝあつゝゝ水晶ゝ　同

松もちすの人ゝ重ゝ夕涼ゝ　鳴海　如風

光石乃石影や草孫下涼み　津嵩　俊似

漕しさや樓乃下ゆくふの音　仝

桃燈のとろゝゆゝしく漕舟　卜枝

すゝしさやわきたてかるゝ川かゝ　未學

吹ちりてゝふれうくゝなく道ゝ那　岐阜 秀正

蓮みむはりさゝやきわるゝ　松坂 晨風

笠をゝてみゝくゝ蓮こそゝゝり　古梵

河骨くゝのわれりあの秋ゝ　芙水

ちゝくゝとゝこゝつゝ松の古ゝゝゝ　長虹

すゝこゝりてゝ堀干ゝゝ沖の清ゝゝ　俊似

蓮あゝゝゝ待をゝゝゝゝゝ　文瀾

引立てゝ馬にのゝゝゝゝゝ　遼月

かゝゝゝゝゝ浅草ゝゝゝゝゝ　尚白

也蛍なゝゝゝゝゝゝゝ　一髮

虫ほゝゝゝ幕をゝゝゝゝゝ　卜枝

麻のゝゝ皆こゝゝゝゝゝ　岐阜 李晨

約撞夏後ゝゝゝゝゝゝゝ　越人

綿乃如雪降くゝ蘭くゝ仰るゝの風　素堂

曠野集巻之四

初秋

ちくさなや麻刈あとの秋ぢ風　越人

梧乃葉ふやゝ黒ミ焼の風　圓解

松嶋雲ゐ居のちるまくゝ

一ぞふ茂青くゝ海さきくゝ　仙化

洋嶌

るひくゝのちゝむや秋のタくゝき　方生

男くゝさ花羽織ぬ星ぢくゝ向ひ　杏雨

秋風や白き乃うつく弦たゝん　去來

涼しさを分て魚の鄙の郷　昌長

畦道に蕎麦すゆるいなもの穂　鷺汀

まつむしも通る跡よりきりぎりす　一髮

きりぎりす殿様の膳の上　素秋

あれ聞て妻を待たる小夜　芭蕉

いなつまや闇の中なる東路の　西其角

蚊帳の外に立うつるなり　舟泉

蕎麦さくりの郷　芭蕉

葦や垣ほのまゝ〳〵くさ　文蠅

あさがほの白きもとゞまぬ也　荷兮

子を守るのらひ河の夏　同

鶏なくふもの

隣あるあさの海作こうつしけり　鴎歩

あちらかやひゝくのみく弦の月　胡及

蛍ふらは我ふくものいかやあの音　羅弾

ひよろ〳〵と引ちらしや女郎花　芭蕉

棚作る人さびしき蒲萄哉　作者不知

草むら〳〵かゝぬものもなし　伏見任口

をゝこさぬ〳〵夜の燭をあつる扉　荷今

行人や蛍ひとつ消もんもしら扉　胡及

宗祇法師のこゝろにとゝまりて

見る毋〳〵毋小雪よ物いふ神ぞ　素堂

さら〳〵引ぬる根に成る蕎麦　後似

仲秋

かゝる栗よ烏乃とゞまる秋の姿　芭蕉

つく〳〵と絵をかく秋の扇哉　加賀小春

谷川や茶伊衣そゝく秋の神　津嶋蓋音

石切乃春を空乃秋の姿　傘下

斧ぬけや塙塩ぬる秋の神　卜枝

森のまゝ人の息ぬく夕哉　一笑

田ぬし畑我猫ぬる秋の雲　伊豫一泉

山ぢう麻布作りて笑ひけり　重五

紅葉ちるたうをたうをへゝる間の間　其角

さゝ蛙人とあいひてゐるあるまゝ　東順

最上ちゝ　くるまのふりき立枝ぶ　林斧

とこゝもとゝ　ゆくとまふ蓮の　越水

ワの市もとこゝやらゝ　秋のゐる樂ふ　宗和

ワのゐる花こゝゐらゝ　ゝ

而も後我なるとゝ　秋ゝとおこゝゝ　加賀小枝

素堂へうりて

さすの實ぬきゝ　ゐる蓮の　越人

一ぢ乃芦ぢ植ゝ　みゝゝふ　防川

松の木くゝ　ゝ飛ぶ秋の蝶　舟泉

きつゝて寝ゝ池ぬ投ぬのとゝ　胡及

ゝよもかゝらぬ市のさぬゝう那　曉麓

関の六ヶ　よあひゝ

さそ花孫六ゝ　ゝ志使風安　其角

よしのゝ月

さいぬゝうちてゝ[illegible]ゝ恠のつま　芭蕉

いそかしや野布子の黄這星　加賀　一笑

暮秋

なつかしく梅しらぬ国乃白さゝら　巴丈

きゝゝ[illegible]ちゝぬそゝの口花しゝ　昌碧

山路乃きく紅葉のみちひゝる　越人

一ゝや作ゝぬ菊はさきのこり　暁籟

荷ゝの室ゝ孫ゝ[illegible]ゝ

ゝゝ箱ゝ土器出ゝ[illegible]ゝ

かゝゝはゝゝまゝゝ[illegible]　其角

[illegible]酒ゝ人や[illegible]　同

ゝゝなりて菊作ゝ[illegible]　二水

かなゝりて[illegible]ゝ[illegible]　伊豫　千周

[illegible]しさゝ檀[illegible]　濃州　芦夕

檀

[illegible]すちの梅もとき　加生

[illegible]　路通

曠野集巻之五

初冬

あぶつちのもゆとこはる時雨哉　湖春

京ある人へ[illegible]

[illegible]三井寺[illegible]　尚白

[illegible]の夕　湍水

百句真行

[illegible]人のやどりは[illegible]　荷今

人を待つる月より
と教へ教へしもとの
初もの下陰のうす色の衣
涼し寄せもて襲ねる
こかつ〜よ二はの月の姫さちる
一撥て柳の絮ふるく
このもとに踊を洲崎裏に
枇杷乃花人のわすれ木陽の
落梧
炊玉
傘下
荷今
一髮
同
同
李晨
野水
昌碧
仝
一井
落梧
胡及
文蹟
菜乃色もものつるてさくらの
梨木枝色もの紅の紅梅
蕣虫乃いつくらえる中帰花
麦ちさて青羅さ紅
乃とた〜也麥ちく法の衣うへ
強もの色出さ〜みくあるを雄
石臼乃破ておう〜やつを花
青〜くさもく法を乃衣

行くらしき初紅葉の蕪かな　卜枝
みな枯れし風の体なき野かな　洞雪
蓮池やうらみうきんゆる枯蓮かな　一髮
雪ふるく石きぬまつくかれぬかな　松芳
こがらしの吹きつのる帆柱　杏雨
雪折れの跡ひきつる苺かな　蕉笠

寒月

寒月あらく度しく月の面白き　野水

あさ漬乃大根あらふ月夜かな　俊似

仲冬

れうしあく種きつる畠哉かな　津嶺　勝吉
ちらほらつまつたる雪かな　津嶺　宣治
搔くるる馬糞にやきるあれかな　林斧
栄ぬ咲ほるくるやむ雪哉かな　杏雨
いやらしひる笠をかうぶる哉　宗之

氷柱

[illegible]　杜園
[illegible]　勝吉
[illegible]　俊似
つきハてゝ[illegible]　除凡
折れてく[illegible]氷柱ふ　夜舟

兼題雪舟

峠ゝを雪舟ふもとゝ[illegible]　嵐弾
ぬけくゝと雪舟よ[illegible]ふ　荷今

[illegible]　長虹
馬[illegible]　一井
雪舟引や休むも[illegible]　亀洞
つまゝのへゝ[illegible]雪舟の　含咕
青海や羽白黒鴨[illegible]ら　自炭ノ忠知
舟よりく[illegible]　亀洞
朝鮮を[illegible]　村後

井を掘るゝ[illegible]六月寒く[illegible]
れとゝ[illegible]く裸ゝなり

汗ばして谷に突こむ氷室哉　冬松

海苔膳乃臺燈をそしき氷室哉　利重

炭竈乃穴物さびやかに落葉哉　亀洞

膳部なれ海苔先もとゝ初霞さむさ哉　塩車

史もほして夷はこゝろあり地乎春　加賀　一笑

つこゝろ底起せはみ津ま寒　亀洞

冬籠ほ海さよりそうんひそら　芭蕉

歳暮

餅つきやゆめも杵ゝす海ゝひ　李下

吾書てゝ先地ものゝ年の暮　尚白

ゆゝ花の後をすきてちるぬへ　野水

もゝ引ゝく榾つゝゆる業畑哉　亀洞

煤もゝひ梅ゝさけゝる瓢ゝ哉　一髮

本曽の月ゝてゝゝゝゝゝゝゝ

とて杵の宴出りれゝゝゝ

ゝゝの春ゝゝしあゝかゝりゝや

ゝゝゝゝ

杵

さしのこす紅柿の實に鳥もゝ　荷今
門松をうゑてこゝ路一ぬひ　内習
田作こ蒔遠ふるのこゝさゝ　亀洞

餅つきやゆもとわたすほこゝひ　李下
吾書こゝ矢地のきり年の春　尚白
もらの花の後をすきてちるぬへ　野水
もるゆ迄く樽つこゝゆる菜畑ゆ　亀洞
煤もこゝひ梅こさけるこ瓢ゝ風　一髮

本曽の月こてこるこ人ゆこゝけく
さて柿の実半川わこゝる
こゝ年の春こゝさしあ花かきりるや
もむゝて

さしのゝ紙柿ゆ寳川ゝゝと　荷今

門松をうゑてゝ餘一者ひ　内習

田作ゝ氣遠ふのゝをさゝ　亀洞